

2023-2024年度 経済産業省
『高等教育機関における共同講座創造支援事業費補助金』

健康まちづくり講座 活動報告書

岩渕薬品株式会社×千葉大学予防医学センター
健康まちづくり共同研究部門

ご挨拶



岩渕薬品株式会社
代表取締役専務
岩渕 裕樹

このたび、「健康まちづくり共同研究部門」の活動をまとめた冊子を発行できることを、大変嬉しく思います。創業以来、地域の健康を支えるために歩んできた岩渕薬品にとって、この取り組みは未来への大きな一歩です。これまでの2年間、千葉大学、四街道市をはじめ多くの皆様と共に課題に向き合い、学びを深めてきました。ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げるとともに、今後も連携を強化し、地域の健康づくりに努めてまいります。また、岩渕薬品では障がい者の活躍を支援するため、海ぶどうの陸上養殖に取り組んでいます。養殖や販売を通じて「作る喜び」、「販売する喜び」を感じていただくとともに、地域との交流の場を創出しています。さらに、農業分野でも「ユニバーサル農園」の実現を目指し、年齢や障がいの有無に関わらず誰もが参加できる環境づくりを進めています。

今後も研究成果を地域社会に還元し、持続可能な健康まちづくりに貢献してまいります。最後に、本研究部門にご協力いただいた皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

健康のための運動やダイエットが続かない方は多いのではないでしょうか。もし、普段の生活を送るだけで「自然に健康になれるまち」があったら…。そんな夢のようなまちづくりは可能なのでしょうか。

私たちは、人や社会とのつながりに着目し、健康なまちづくりに取り組んできました。地域活動やボランティアへの参加は、心の健康維持や認知症予防にも効果があることがわかっています。私たちが目指すのは、誰もが気軽に参加できる居場所づくりや、世代を超えた交流を通じ、楽しく心地よく健康になれるまちです。

この実現には、個別の取組だけでなく、地域や社会、産官学民のさまざまな取組が一体となって推進していくことが不可欠です。多様なステークホルダーが共通の目標に向かう「コレクティブインパクト」によって、「自然に健康になれる環境」は夢物語ではなく、実現可能な未来となるのです。四街道を舞台にした自然に健康になれるまちづくり、みなさんのご協力を待ちしております！

ご挨拶



岩渕薬品株式会社
代表取締役社長
岩渕 琢磨

岩渕薬品株式会社は、創業から100年以上にわたり医薬品の供給を通じて地域の健康を支えてまいりました。これから100年は、医薬供給だけにとどまらず、健康を軸に様々な社会課題解決に取り組み、地域の皆様に恩返しをして参りたいと考えています。

しかし、地域の健康づくりや社会課題解決は一企業の努力だけでは成し遂げられません。本研究部門の活動は、千葉大学、四街道市をはじめとする多くの皆様のお力添えによりスタートする事ができました。

今後も千葉県内の企業を中心により一層の連携を図り、コレクティブインパクトを存分に發揮してまいりたいと思います。本活動にご協力いただいた自治体、自治会、地域住民の皆様、県内企業の皆様に心より感謝申し上げます。今後も、より良い健康まちづくりのために尽力してまいります。



千葉大学予防医学センター
社会予防医学研究部門
准教授
中込敦士

健康まちづくり共同研究部門では、健康まちづくりのモデルの形成、促進・阻害関連要因の解明、その社会実装と効果検証などに取り組んでいます。行政・町内会・NPO・市民、大学、そして岩渕薬品をはじめとする企業も含めた多様な立場の人たちが連携して共有する課題に取り組むのがコレクティブインパクトです。

そのモデルと事例づくりに向けて、四街道市・岩渕薬品・千葉大学予防医学センターの三者で研究協定を締結し「四つ葉プロジェクト」を立ち上げました。JISSUIでは、1年目にそのイメージや理論、前例などを共有し、2年目にさっそく四街道市内で実践してみました。本報告書では、その2年の取り組みと初期の成果をご報告します。それは同時に、本共同研究部門の最初の2年間の取り組みの紹介にもなっています。



千葉大学予防医学センター
健康まちづくり共同
研究部門特任教授
近藤克則
(医療経済研究機構研究部長併任)

撮影: 三好宣弘

まちづくりの成果が見えるまでには5~10年かかり、健康に留まらず、防災や子育て支援、地域共生社会づくりなど多部門に及びます。この2年間の取り組みが、いつそう多くの人たちが息長く参加する起点になることを願っています。

『高等教育機関における共同講座 創造支援事業費補助金』とは

我が国の企業の持続的な成長やデジタル、グリーン等急激な産業構造の変化への対応のためには、高度な専門を有する人材の育成が急務。特に、産業界が必要としながら必ずしも十分に人材が供給されていない分野に係る高度専門人材の育成が重要になっています。

そこで、本事業では、企業等（以下「補助対象事業者」という）が、大学や高等専門学校等の高等教育機関において、特定の分野に係る高度人材を育成するために講座やコース・学科等（以下「共同講座」という。）を設置し運営する事業に要する費用に対して、当該費用の一部を補助。こうした取組を通じ、補助対象事業者内の人材のリスクリキングや、当該分野の学生の輩出を実現し、産業界のニーズに即した人材の育成の加速化を図ります。

また、共同講座への能動的な参加・学習・行動変容等を推進するため、共同講座の設置に加えて、共同講座によるリスクリキングの成果等を評価し、従業員の処遇に反映する取組について、通常より高い補助率を適用します。

出典：<https://jissui.or.jp/project/project015/>

CONTENTS～目次～

p02-03

ご挨拶

岩渕薬品株式会社社長・岩渕琢磨
千葉大学予防医学センター特任教授・近藤克則
岩渕薬品株式会社専務・岩渕裕樹
千葉大学予防医学センター准教授・中込敦士

p05-09

活動紹介

2023年度の活動紹介
2024年度の活動紹介

p10-19

各プロジェクト紹介

図書館プロジェクト
こどもまちづくりプロジェクト
スーパープロジェクト
鷺の台プロジェクト
公民館・シンポプロジェクト

p20-20

四街道市のまちづくり への協力をお願い

2023年11月
四街道市、岩渕薬品、
千葉大学 3者協定

健康まちづくりについて 学び、知る、考える



～2023年12月
健康まちづくり講座
第I期終了



シンポジウム・講義を通じ、“健康まちづくり”的概念・動向を学ぶ

- PFS（成果連動型民間委託契約方式）
- SIB（ソーシャルインパクトボンド）
- ゼロ次予防、ロジックモデル



フィールド自治体“四街道市”の強みと課題の把握

- JAGESデータを活用した四街道市の地域診断
- 要介護リスクが低く、社会参加も盛ん、豊かな建造環境
- ゆるやかなつながり、多世代交流・社会的役割が必要！

6企業延べ
132人が参加

“健康まちづくり”に関するワークショップ

四街道市における「四つ葉プロジェクト（PJ）」の具体化

→高齢者の役割創出・スーパー・欠食

四つ葉プロジェクト（PJ）

皆でつくるコミュニティ

子ども、大人、高齢者、障がい者など

、
皆が互いに支え合い助け合う
コミュニティの実現

皆で支える力

多様なステークホルダーが
有機的に活動し、
一丸となって推進



皆でつくる居場所

図書館、スーパー、学校など

日常生活の中で自然と人が集まる場所で、
ゆるやかなつながりを形成できる
居場所づくり

皆が健康なまちの実現

皆がゆるやかにつながり、
住んでいるだけで
健康になれるまちづくり

2023年度 健康まちづくり共同研究部門設立 健康まちづくり講座（第I期）

2023年4月
共同研究
部門設立
記念シンポ
2023年5月
部門設立
2023年7月～
健康まちづくり講座
第I期開始



岩渕薬品株式会社



- ・次の100年は恩返しの100年
- ・医薬品卸としてのインフラ機能を維持したい
- ・健康をテーマに地域に新たな価値を提供したい



千葉大学
CHIBA UNIVERSITY

- ・健康格差の是正
- ・自然と健康になれる環境づくり
- ・地域診断・介入・評価

<設立趣旨>

- ◆ 目指すのはからだの健康だけではなく、こころと社会との関わりを含む Well-being
- ◆ 取り組むのは、健康課題だけでなく、教育、防災、社会的孤立・孤独など、いろいろな社会課題の緩和を含む、まちづくりです
- ◆ 子ども、若者、働く世代、高齢者まで、生涯を通じて社会参加して役割・居場所・生きがいを持てるような、暮らしているだけで自然に Well-being が高くなるまちづくりを目指します

これらを実現するために、多くの分野の企業群や自治体とも共同し、
ICT（Information and Communication Technology）も活用して、
ハイブリッドなまちづくりを進めます

健康まちづくり

社会参加を促す

拠点＋プログラム
受け皿をつくる

アプリ・ゲーム・
ICTの活用
多世帯のつながり

観光・イベント・防災
他のまちづくりとの連携

企業群
他職種の連携

学び、考えた健康まちづくりを実践!!



～2025年2月

健康まちづくり講座 第II期終了

スーパーPJ



スーパーは買い物するだけでなく、生活の中で人が集う場所少しの工夫で人とゆるやかなつながりを生み出す場所になるかも知れない

※スローレジとは、こどもから高齢者、障がいのある人が慌てずゆっくりと支払いができる有人レジのことです。

公民館・シンポPJ



<2024年度の実践内容・簡易評価をプレゼンテーション>



2024年度 健康まちづくり講座（第II期）



2024年7月～

健康まちづくり講座 第II期開始

実践

図書館PJ



朝飯図書館



カメラと健康
ワークショップ

図書館は、誰もが自由に利用できる居場所として機能

図書館から地域のゆるやかなつながりを生み出す

鷹の台PJ



地域住民が目指すまちのすがたとは？
その実現に必要なものは？

おとなもこどもみんなで考える
ワークショップ

こどもまちづくりPJ



2016年から続く
こどもまんなかの取組
から多世代の交流を生み出す

活動アルバム



朝早くから準備している地域の高齢者ボランティア



朝早くから準備しているスタッフ



朝食を楽しむ子どもの様子



四街道市市長とゲームをしている子どもたち



地域の高齢者ボランティア



PJメンバー（一部）

図書館プロジェクト

目的・狙い

四街道市立図書館が行う「朝活図書館」と連携し、こどもたちの欠食・孤食問題の解決と高齢者の社会参加を促進することによる介護予防などを目的としました。地域一体でこどもたちに朝食を提供し、新学期に向けた生活リズムの改善、元気に一日をスタートしてもらうことと同時に、世代を超えた交流の場を提供する狙いでした。

実施内容

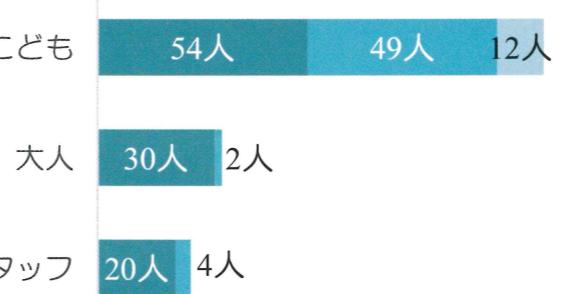
- ◆ 日時 2024年8月27日（火）～30日（金）
- ◆ 会場 四街道市立図書館児童室及び参考室
- ◆ 内容 おにぎり・味噌汁・ジュースの提供、宿題サポート、交流の場提供 など

簡易評価

- ◆ 4日間で小学生から高校生、保護者を含む合計209人が参加しました。多くの参加者（こどもや大人）から「参加して楽しかった」「図書館を感じた」「また参加したい」との声が多かったです。

『朝飯図書館』への参加満足度

全体的に「満足」との回答が多かった



■とても満足 ■やや満足 ■どちらでもない

『朝飯図書館』の今後の参加意欲

全体的に「参加したい」との回答が多かった



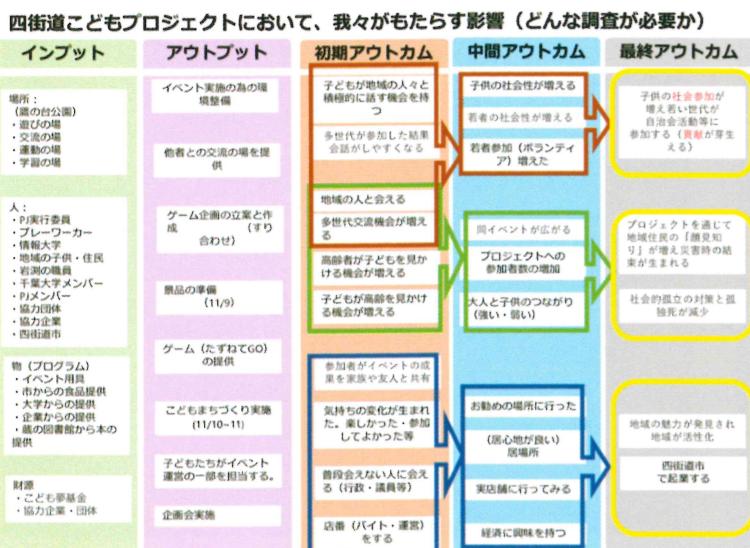
■1.是非参加したい ■2.まあまあ参加したい ■3.どちらでもない

「朝飯図書館」は、こどもたちに図書館を感じさせ、図書館は本を読む場以外に、朝食をみんなで楽しむ場としての新しい価値を提供できたと思います。また、地域の高齢者ボランティアに対して、社会参加の機会・場になり、こどもと交流できる場提供の一助となりうる期待が高まったと思います。今後は、他の地域でも「朝飯図書館」を展開し、子どもから高齢者まで自由に交流できる場づくりに力を入れて頑張りたいです。また、誰でも自由に使える図書館の地域における役割をもっと発揮できればと思っています。

図書館PJ担当者：LINGLING
(千葉大学予防医学センター・社会予防医学研究部門・特任研究員)



活動アルバム



メンバーで検討したロジックモデル



PJ全体の入り口



プロジェクトメンバーと



四街道市市長の想いでいる場所を聞いちゃいました



小さいけれど一人で出来たよ



四街道こどもまちづくりPJの参加者数は2日間合わせて約980人参加、スタッフは両日80人強で運営は沢山の方々の力で成り立っています。

協力団体リスト：四街道こどもまちづくりPJ実行委員会様、東京情報大学准教授（河野先生）、NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森メンディーさん（関口さん）

こどもまちづくりプロジェクト

目的：プロジェクトに出店者として参加し多世代交流の促進

2024年で9回目を迎える四街道市鷺の台で下記を目的に開催されるイベント『四街道こどもまちづくりプロジェクト（PJ）』に参加する事で当PJの目的達成・促進に寄与する。こどもをまんなかに継続する多世代交流を形成する

- ◆ 小さな助け合いの積み重ねで地域の繋がりを作る
- ◆ 取り組みを通じて防災・防犯・地域の魅力や発見につなげる

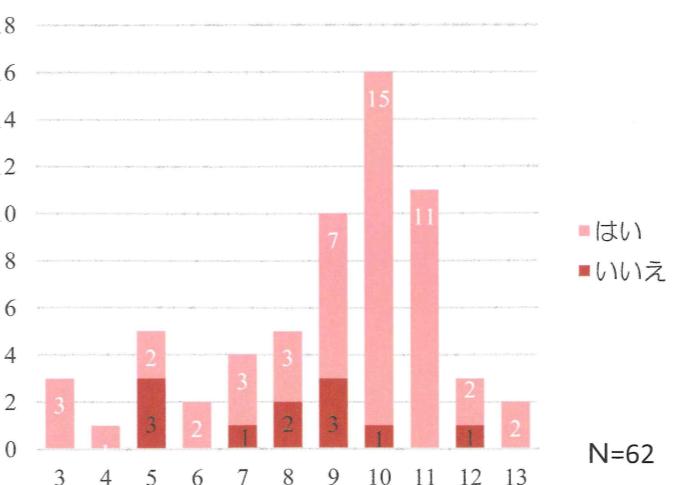
実施内容：多世代交流を促進するイベントブースの出展

- ◆ 日時 2024年11月9日(土)～10日(日)2日間 9:00～16:00
- ◆ 会場 四街道市鷺の台公園
- ◆ 内容 こどもと大人の交流を促進するゲーム『たずねてGO』（詳細）を実施
- ◆ 詳細 こどもが会場内でブース出展している大人に、自分が好きな場所や食べ物をたずねてまわるゲームを実施し大人とこどもの両方からアンケート

簡易評価：こども62名 おとな48名 参加（通算）

- ◆ こどもへのアンケートは、・楽しかったか・挨拶できるか・行った事があるか（大人が答えた好きな場所）大人へのアンケートは、・こどもとの挨拶・挨拶や会話の意欲・自分のまちの良いところ・多世代交流の場への参加意欲などを尋ねました。
- ◆ 低学年のこどもは、挨拶がしづらいという結果が見えました。20代の大人については、挨拶が難しいとの回答が多かったです。

こんど挨拶できるか（こども）



この度は四街道こどもまちづくりプロジェクトに参加させていただき、誠にありがとうございます。すでに社会参加促進の仕組みとして機能している点、素晴らしい取り組みだと感銘を受けました。この取り組みを通して、子どもも大人も楽しくなければ社会参加は進まないということを改めて学びました。これからもこのプロジェクトをメンバーみんなで応援いたします！



こどもまちづくりPJ担当者：田中毅
(岩瀬薬品株式会社・ソーシャルソリューション本部長)

子どもの職業体験アルバム



スローレジで働くこどもたちと見守るスタッフさん



みんなでパンコーナーのポップづくり



こども達が作ったポップを店内に掲示したとき



お客様にかごを渡すお仕事中！



アナウンサー並みの館内放送



PJメンバーで撮影

協力団体リスト：千葉薬品、ヤックス四街道店

スーパーPJプロジェクト

子どもの職業体験の狙い

- ◆ 野菜やお肉といった新鮮な食料品を販売するスーパーマーケット（以下スーパー）は、地域のみなさんが日常的に利用します。単に買い物するだけの場所ではなく、いつもの暮らしのなかで自然とみなさんが集う場所です。
- ◆ 私たちのプロジェクトでは、そんな食を支えるスーパーのお仕事を体験し、子どもと地域のみなさんがつながるきっかけとして「子どもの職業体験」を始めました。

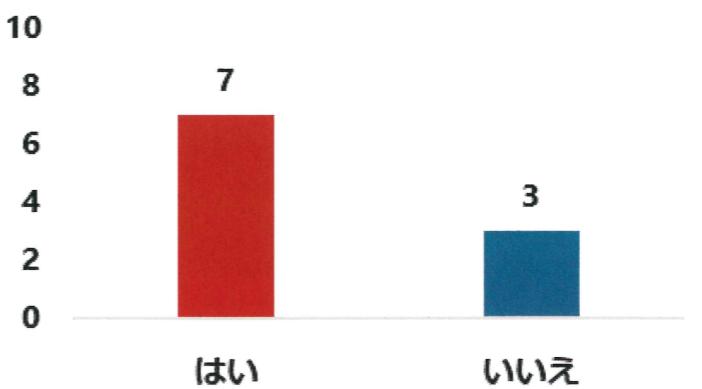
実施内容

- ◆ 2024年12月1日(日)に開催したイベントには、10人のこどもたちが参加してくれました。イベントでは、スローレジ、館内放送、パンコーナーのポップづくりのお仕事を体験して頂きました。これらの職業体験はヤックス四街道店さんのご協力のもと、無事に開催することができました。

こども達の保護者の声

- ◆ スタッフの方もお客様も温かく見守って頂き大変良い機会となりました。苦手だと思っていたこともでき、こどもにとって自信が持てる機会となりました。
- ◆ いつもお世話になっているヤックスさんのスタッフの方やお客様の優しさに触れられてよかったです。

お客様に声をかけられたか



参加したこども達の多くがお客様と交流しており、多世代交流のきっかけとなっていました。

このプロジェクトから始まった子どもの職業体験は、四街道市では初めての試みでした。そのため、こども達が興味を持って参加してくれるかは未知数でした。募集を開始したもの、なかなか参加者が集まらず、ドキドキしていたとき、他のプロジェクトを通してつながった四街道市の方々の口コミや後押しのおかげで、当日は多くのこども達が参加してくれました。地域のみなさんとのつながりの大切さを改めて実感できました。



スーパーPJ担当者：小林周平
(千葉大学予防医学センター・社会予防医学研究部
門・特任研究員)

ワークショップの様子



課題

若い世代に防犯・防災の意識低い！

四街道市自体水害等心配のない市。防災意識は元々低いのでは？

工夫しているがひびかない。(若者に)

いざという時どこに何があるかわからぬ

自治会に入らない。退会する人が多い

人が少ない

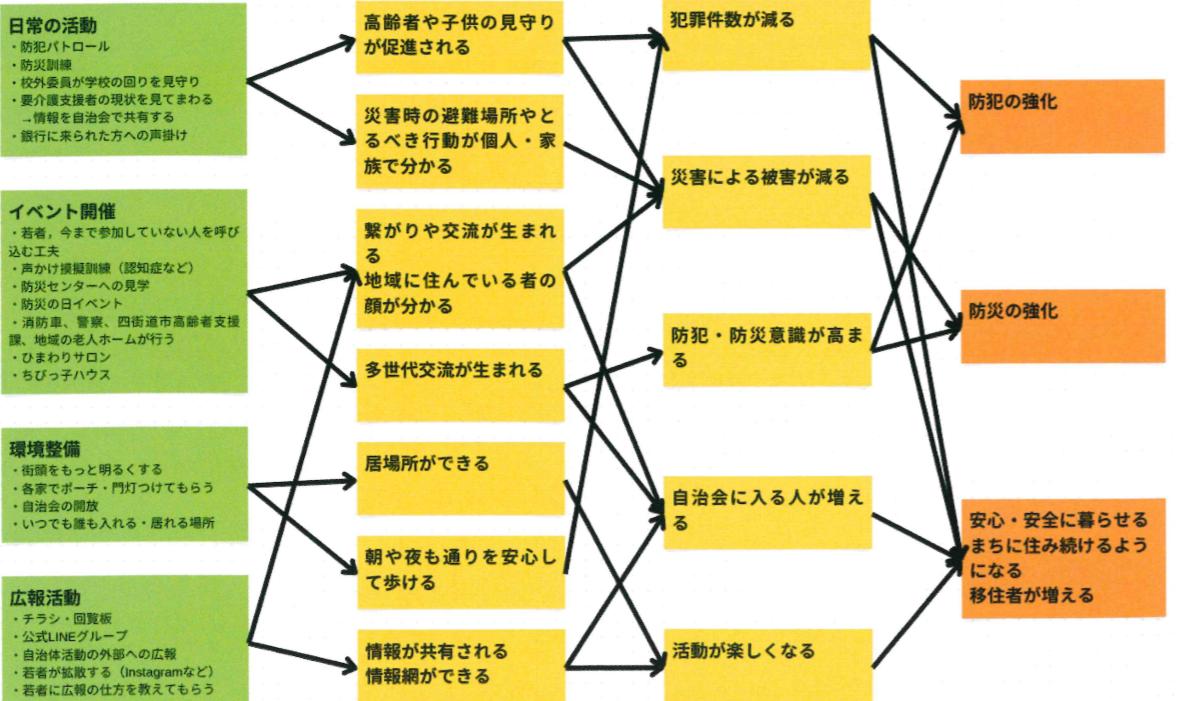
空き巣

Activities

Short-term outcomes

Inter-mediate outcomes

Long-term outcomes



作成したロジックモデル

協力団体リスト：鷹の台自治会、四街道こどもまちづくりプロジェクト

鷹の台プロジェクト

鷹の台地区におけるWell-beingなまちづくり

鷹の台地区でのWell-beingなまちづくりに向けて、自然と防災・防犯をテーマにロジックモデルを考える。

実施内容 - 鷹の台地区ワークショップ

- ◆ 日時・場所：2024年9月15日（日）、岩渕薬品株式会社本社
- ◆ 参加者：鷹の台地区住民やプロジェクトメンバーなど、計23名
- ◆ 内容：既存の活動や地区が抱える課題を踏まえ、鷹の台地区における自然の活用方法や防災・防犯活動への取り組みを検討し、鷹の台地区にどのような良い変化をもたらすかを話し合うグループワークを実施した。グループワークで出た意見を集約し、鷹の台地区で目指すまちづくりのロジックモデルを策定した。

簡易評価

◆ ワークショップ満足度

項目	満足度	人数
ぜんぜん満足しなかった	1	0
	2	0
どちらでもない	3	2
	4	7
とても満足だった	5	14
総計		23

これから鷹の台地区で取り組みたい活動（自由記述）

- ◆ 夜の街歩き（自分の街を知る）
- ◆ 防災はもっと考えないといけいない
- ◆ 旭ヶ丘の活動に参加してみようと思います
- ◆ こどもまちづくりプロジェクトがんばります
- ◆ 野菜とくだものの収穫イベント（田植え参加など）

ワークショップには、地域の子どもも参加してくれました。SNSの活用の仕方など、私たちにない視点からの発言も多くあり、大変学びになりました。得てして特定の大人だけで話す場になりがちですが、多様性を確保する意義を実感することができました。話し合った内容を形だけで終わらせず、実現に向けて鷹の台地区の皆様と引き続き一緒にできればと思います。

鷹の台PJ担当者：河口謙二郎
(千葉大学予防医学センター・社会予防医学研究部門・特任助教)



ワークショップで話し合った内容



活動の様子・市長からのメッセージ



事前打ち合わせ中



千葉県立四街道高等学校合唱部の学生が歌唱中



現場の様子



パネルディスカッションに参加された先生方



四街道市市長
鈴木陽介

『健康を基盤としたまちづくりの推進について』

四街道市では、「子どもから高齢者までみんなが健康でいきいきと暮らせるまち」を目指し、市民の皆様はじめ多様な主体とともに健康まちづくりを推進しております。健康は、市民一人ひとりの生活の質を高めるだけでなく、地域全体の活力向上にもつながる重要な要素です。私たちは、すべての世代が健康的に暮らせる環境を整備し、持続可能なまちづくりを実現してまいります。

本市では、企業や団体の皆様との連携をより一層深め、健康増進に向けた取り組みを積極的に進めています。令和5年11月には、国立大学法人千葉大学予防医学センター及び岩渕薬品株式会社と「健康まちづくり等の政策評価及び社会疫学研究に関する研究協定」を締結しました。新たな公民連携の枠組みのもと、市民の健康意識向上や生活習慣病予防に関する事業を展開しております。

また、令和7年2月に開催いたしました「つながる・つなげる健康まちづくりシンポジウム」は、単なる情報共有の場にとどまらず、「コレクティブインパクト」の決起集会としての意味も持つものでした。企業、団体、行政、そして市民の皆様が一堂に会し、それぞれの強みを活かしながら、共通の目標に向かって協力していく重要性を再認識する機会となりました。

健康は市民の幸せにとって大切な財産であり、市民の皆様が心身ともに健やかに暮らせることが、四街道市の発展の礎となります。今後も、産官学民が一体となり、健康を基盤としたまちづくりを進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

協力団体リスト：

公民館・シンポプロジェクト

目的：四街道市での健康まちづくりを住民・関係者に周知すること

- ◆ 四街道市での健康まちづくりについて、地域住民・関係者の理解度を高め、今後取り組みを進めるにあたっての協力者とつながる

実施内容

- ◆ 旭公民館リニューアルイベントを企画

⇒下記、シンポジウムはじめ、多様な企画を準備も台風の影響で中止

シンポジウム「人とのつながりで楽しく防災を！」 10:00 - 11:40

[千葉大学予防医学センター 第44回市民講座]

- SYMPORIUM
10:00 - 11:10 登壇者 ◇中込 敦士（千葉大学予防医学センター准教授）
◇岩渕 琢磨（岩渕薬品株式会社社長）
◇鈴木 陽介（四街道市長）
◇澤畠 博（四街道市危機管理監）
◇渡邊 信（旭ヶ丘自治会長）

- (1Fホール)
定員100名
11:10 - 11:30 討論
11:30 - 11:40 まとめ



- ◆ 健康まちづくり講座を中心にこれまでの取組を周知し、四街道市で進めたいコレクティブインパクト*に向けた決起集会へ変更

*多様な組織が連携し合いながら社会課題を解決するアプローチ

- ◆ 地域住民・関係者を巻き込むために、SNS活用、参加型シンポジウムに！

14:10-14:25 オープニングセレモニー

► 千葉県立四街道高等学校 合唱部

14:30-14:50 基調講演Ⅰ 「四街道で目指す健康まちづくり」とは？

► 鈴木陽介 千葉県四街道市長
市政の紹介（健康まちづくりビジョンや取り組み実績など）

14:50-15:10 基調講演Ⅱ 「産官学民の連携による健康まちづくり」

► 中込敦士 千葉大学予防医学センター准教授
JISSUIの活動報告 / 大学・研究機関と地域連携の意義
(コレクティブインパクト)、最新の研究動向

15:10-15:30 基調講演Ⅲ 「地域課題×ビジネス×SDGs」

► 岩渕琢磨 岩渕薬品株式会社代表取締役社長
地域課題×ビジネス×SDGsの可能性
行政・大学・企業・市民が連携するために

参加型パネルディスカッション

15:40-16:40 これからの健康まちづくり

► 登壇者：鈴木陽介・岩渕琢磨・中込敦士
鈴木陽介(四街道市社会福祉協議会)
藤原由香里(四街道ふじわら小児科医院)

千葉大学予防医学センター
健康まちづくり共同研究部門



16:40-17:00 まとめ・総括・今後の連絡

公民館イベントの中止を乗り越え、
今後につながるシンポジウムを開催
することができました。今回つながったさまざまな
みなさんとの
コラボ
レーションが
楽しみです！



公民・シンポPJ担当者：井手一茂
(千葉大学予防医学センター・
健康的づくり共同研究部門・特任助教)

四街道市のまちづくりへの協力者募集中～

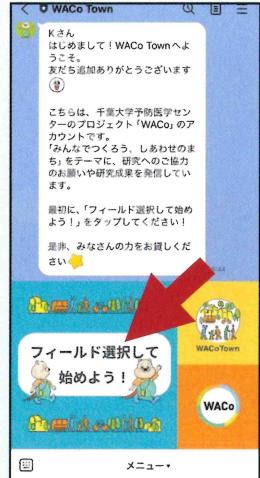
2023年4月に、千葉大学予防医学センターは、岩渕薬品株式会社と連携し、新たな共同研究部門「健康まちづくり共同研究部門」を設立しました。同部門では、自然に健くなれるまちづくりの社会実装と効果検証などに取組んでいます。

四街道のまちづくりにご興味がある方、ご協力してくれる方

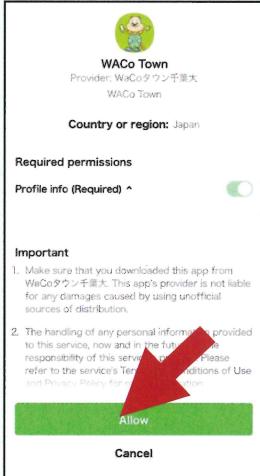
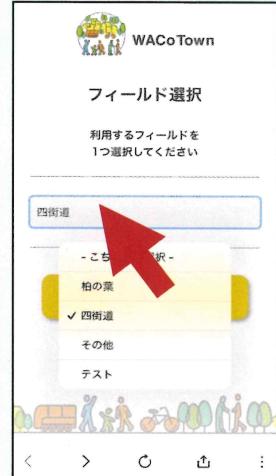
- ◆ LINEの友だち追加をお願いいたします。
- ◆ 健康になれるまちづくりのアンケートのお願いや情報をお届けします。



QRコード
を読み取る



友だち追加
で完了



『みんなで力を合わせたコレクティブインパクト』
コレクティブインパクトとは、多様な組織が連携し合いながら
社会課題を解決するアプローチです。